

令和5年9月26日

古市小学校  
保護者 様

丹波篠山市立古市小学校  
校長 酒井 宏

～確かな学力と豊かな心を持ちみんなで伸びる古市っ子をめざして～

今年度、4月18日に実施した6年生対象の「全国学力・学習状況調査」、および5年生対象の「丹波篠山市学力状況調査」、3、4、5、6年の「丹波篠山市生活習慣状況調査」についての結果がまとまりましたのでお知らせします。この調査の目的は、「児童の学習状況や生活状況を把握・分析し、授業改善や指導に生かす」というものです。

この調査結果は児童の学力のすべてを表したものとはいえませんが、学校全体で取り組んできたこれまでの学習の成果と課題を見ることができると考えています。保護者の皆様にお知らせし、一緒になって取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 1 調査結果の概要

### (1) 教科に関する調査

(丹波篠山市学力調査 5年生)

※目標値：学習指導要領に示された内容について、項目ごとに正答できることを期待した児童の割合を示します。この目標値を基に学力の定着度を見ています。

#### 【国語】

領域別正答率	言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の取り扱いに 関する事項	我が国の言語文 化に関する事項	話すこと・聞 くこと	書くこと	読むこと
目標値						
古市小5年生						

※辞典の使い方や4年生までの漢字の習得には成果がみられます。領域別では「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の項目に課題があります。語彙を増やすことや言葉の意味を知り、言葉を適切に使用し論理的に説明文を書く力を伸ばすことが必要です。

#### 【算数】

領域別正答率	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
目標値				
古市小5年生				

※分数の計算に成果がみられます。加減乗除の基礎的な計算力はついています。題意を理解し、基礎的事項や公式を使って、解への見通しをもったり、応用問題に根気よく取り組んだりする学習をすすめる必要があります。また、資料や表の読み取りからグラフ化し変化を読み取り、考察したり表現したりする活動が必要です。

(全国学力調査 6年生)

【国語】

領域別正答率	言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に関 する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均					
古市小6年生					

※正しい漢字を使うことや文章の要点をつかむこと、会話文から話し手の意図をつかむことに成果がみられます。領域別では「書くこと」の項目に課題があります。自分の思いや伝えたいことを、正しい言葉や適切な意味を持つ用語を使い、文字数を限定して論理的に表記する力を伸ばすことが必要です。

【算数】

領域別正答率	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国平均				
古市小6年生				

※比例や反比例の理解、台形や正方形の図形の性質、加減乗除の計算などに成果がみられます。領域別では「データの活用」の項目に課題があります。目的に応じて、グラフや表を読み取り、データの特徴や傾向をとらえ、考察できる力を伸ばすことが必要です。

(2) 学習や生活習慣に関する調査 生活習慣状況調査(3, 4, 5, 6年生)、学習状況調査(6年生)

○学習習慣

宿題を毎日する児童の割合は高いですが、家庭での学習時間が短い傾向がみられます。また、休みの日など、自分で計画を立て、予習・復習をしている児童の割合が、全国平均に比べて低い傾向にあります。特に、テストやプリント等の見直しや解き直しに取り組む割合が低い傾向にあります。「学校の授業で学んだことは、将来、社会に出たときに役に立つ。」と答えた児童が9割を超えることから、「自ら学ぼうとする姿勢」や「学習習慣づくり」を家庭と連携しながら進めていきます。

○基本的な生活習慣

朝食を毎日食べている児童の割合は大変高いですが、食べたり食べなかったりする児童も少しあります。朝、自分で起きる児童の割合は、学年により差があり、食べる時間がなかったり、持ち物の確認ができなかったりする子もいるようです。「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みを継続するとともに、見通しを持って生活をする習慣作りも進めていきます。

○規範意識

「学校のきまりや、クラスみんなで決めたルールを守る」「困った人がいると助ける」「自分の方が悪かった時に素直に謝る」の回答は、どの学年も全国より上回っていて、規範意識は身につけているといえます。

○学級風土

「今のクラスが好き。」「自分のクラスにはいいところがある。」「発表会等でクラスが盛り上がり団結する。」という割合が大変高く、学校においてみんなで学ぶことや活動することに喜びを感じているととらえています。今後も子どもたちにとっての学びの場である学校・学級づくりに努めていきます。

<裏面に続く>

## ○インターネットやテレビ、ゲームの時間

学習におけるタブレットの利用は「毎日活用している」の割合が高く、学習道具として定着しています。インターネットやテレビ、ゲームの時間が、1時間以上2時間以内の子が多いです。中には4時間以上と答えた子もいます。長時間の使用や依存傾向にならないように、家庭と連携しながら指導していきます。

## ○自尊感情・自己肯定感

「家族は自分にとって大切な存在」「自分は大切な存在」「家族は自分の気持ちを分かってくれる」などと回答した割合は全国平均より高い結果がでています。また、「先生はクラスみんなのことをほめたり励ましたりしてくれる」「先生は気持ちをわかろうとしてくれる」の割合も9割を超えています。今後も様々な場を通じて、信頼関係を高めながら、一人一人の良さを認め合い、自尊感情や自己肯定感を育む教育活動を進めていきます。

## 2 学力向上、課題解決のための取組

今回の学力調査の趣旨は、これからの社会を生きていく子どもたちに必要な学力は、基礎的な知識・技能の定着を見るだけではなく、複数の情報を比較・分類・類推・関連付け等しながら思考したり、集団の中で、表現したりして、自己の課題解決力につながっているかを見ています。学びは、受動的に教えてもらうものではなく、将来の自分を作っていくため、自分のために主体的に学びとっていくものです。学校は、集団の中で社会性の育成も含め、子どもたちの指導・支援に全力で取り組んでいます。

全体として、概ね基礎学力の定着は見られますので、学校における集団での学習機会を生かして、より学びあう活動を取り入れ、基礎学力を活用していくように取り組めます。仲間と取り組む楽しさを味わわせながら、学力をさらに向上させるために、引き続き、以下のような取組を推進していきます

### (1) 学習規律の定着を図ります。

- ・「時間を守る」「自分の持ち物を自分で管理・整頓する」などの定着を進めます。

### (2) 指導方法の改善をめざします。

- ・「学ぶめあて」を意識させ、児童が意欲関心を持って主体的に学ぶ授業づくりを進めます。
- ・適切な教材・教具やICTを活用してわかる授業づくりを進めます。
- ・思考の機会を設定し、話し合い活動や表現活動とその方法について指導します。
- ・探究的な体験活動を多く取り入れ、キャリア教育の視点で学びが生活につながることを意識させます。
- ・一人一人のつまずきを把握し、個に応じた指導を進めます。

### (3) より良い生活習慣づくり・社会性の育成を推進します。

- ・早寝、早起き、朝ご飯を推進します。
- ・相手の気持ちを考えた行動ができるように支援します。

子どもたちの学ぶ意欲を高めながら、「学んで楽しい」「わかるっておもしろい」「できるって自信になる」という実感が持てるように、資質・能力の育成に取り組んでいきます。保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。